

39 長野県内における透析患者様の通院状況について

医療法人財団大西会千曲中央病院

○武舎 玲子 富澤 良策 古家 悟
西澤 幸子 稲玉 益子 井沢 好雄
太田 喜義 内山 篤 高井 博子
唐木 芳昭

日本大学医学部内科学講座腎臓内分泌内科 松本 史郎 大西 禎彦

〔はじめに〕

当院では、自立はしているが、視力低下や身体的不自由のため通院困難な患者様に対し、乗り合いタクシーでの送迎をはじめた。約1年間運営してみたが、コストの問題送迎時間、待合時間など問題も多く万全のサービスを提供できていないのが現状である。先の透析学会で送迎の事情について発表し、地方での病院で同じような境遇の施設が数多くあることがたがわかった。そこで、県内における透析患者様の通院状況を調査し、また各市町村での補助金制度にも、視点をおき、送迎サービスについて、検討した。

〔目的〕

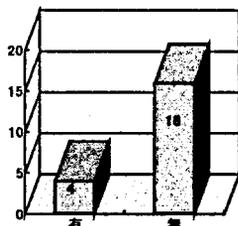
県内の透析患者様の通院状況について調査を行う各市町村における人工透析患者通院補助金が地域ごとに格差があるか検討する。

〔方法〕

- 1 県内を4ブロック（北信、東信、中信、南信）にわけ透析室を無作為に抽出しメールまたは郵送でアンケート調査を行った。
- 2 各ブロックの役所に透析患者通院補助金の内容で聞き取り調査を行った
- 3

〔結果〕

病院で関与して送迎している。 4施設（20%）
関与していない。 16施設（80%）



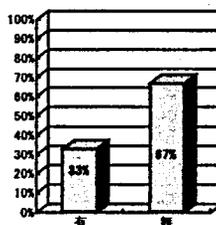
*送迎を行っている施設のサービス内容と負担金

- 1: 病院自体の送迎サービスとして距離に応じて月額3000~6000円徴収
- 2: 外部委託（シルバー人材センタータクシー会社）の金額を病院が負担
- 3: NPO法人での送迎 20円/km
- 4: 組合員での互助会の利用として月500円
- 5: 家人の送迎が不可能な方に限り病院で送迎している。但し患者負担金はなし

*送迎サービスを行っていない施設での患者様の通院手段

- 1: 自家用車による（本人/家族）
- 2: 介護サービス
- 3: タクシーとの個人契約
- 4: 福祉タクシー
- 5: 公共交通機関等を利用する。

* 各ブロックの代表的な21市町村における人工透析患者通院補助金について、電話で聞き取り調査したところ33%の市町村で補助金制度があり、残りの67%は補助金なしとの回答が得られた。



【人工透析通院補助金の内訳】

地域 北信 年間1万円～1万5千円
月額6千5百円〔距離により違いあり〕
東信 最大限度額月額9千円～1万8千円
公共の交通機関料金
片道2Km以上1/2援助
中信なし
南信なし

【送迎サービスを行っている施設の問題点】

- 1 患者様の都合に合わせられない。
- 2 送迎サービスの希望者が増加し病院送迎では、対応できない。
- 3 病院運営では人件費、燃料費、保守管理、保険料など負担が多い。
- 4 送迎を降りてから、透析室までの付き添いがなく不安
- 5 NPO法人へ委託するとき病院のスタッフが説明や手続きに介入し段取りする必要がある。

【送迎サービスを行っていない施設の問題点】

- 1 高齢化とともに遠距離での通院が金額的にも負担が大きい。
- 2 日中独居になる要介護の患者様にかかる負担が大きい
- 3 将来送迎サービスが必要になった場合どの程度サービスしたら良いか、患者様に不平等が生じないか不安である。

〔考察〕

人工透析患者通院補助金制度に地域格差があり、金額滝にも様々で基準もなく、補助されていない場所が大半です。特に中农信地域に透析患者通院補助金がなく、これらの明確な理由については、不明であるが、市町村の福祉サービスや予算の違いが原因と考えられた。

今後透析患者数は増加し高齢化は進み、人工透析患者通院補助金を負担していくには限度があり、そこから通院手段を検討すると、アンケートの結果から、病院だけが負担して送迎するのではなく、外部委託で、病院とタクシー会社との連携や、患者様個人で契約して通院手段を確保し、自分のペースで通院できる手段が最良と考えられた。

〔まとめ〕

病院が関与する送迎サービスを実施している施設が少ないのは、送迎に関係する問題点が多くこれらを解決するのに時間と労力がかかるのが一番の原因と思われる。行政で解決するにもそれぞれ事情があり、全てをゆだねるにも限界がある。民間業者が参入することで送迎に関する事務的な問題点は解決できると思われるが、ただ患者様を安全に送迎するという事だけではなく送迎サービスは患者様が出来る限り自立し、自分らしく生きることへの支援であることを忘れてはいけないと思われる。